

1. 初期支援（初めのかかわり）

メンバー

常勤職員8名 非常勤職員 3名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	9人	2人	0人	0人	11人

前回の改善計画

初めて利用する支援（宿泊・通所・訪問）に関して、時間をかけて丁寧に本人に話し、不安を和らげて過ごしてもらう。

前回の改善計画に対する取組み結果

特に初めての宿泊に対しては不安を抱く利用者が多く、夕方は特に不穏な状態になるため、職員が寄り添い話を聞くようにしている。また夜間帯も心配なくリラックスできるように、夜勤者が見守りをする事ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	9	2	0	0	11
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？	10	1	0	0	11
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか？	10	1	0	0	11
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？	10	1	0	0	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・新規利用者はカンファレンスや送りノート、朝のミーティングで情報を共有することができている。また、支援していく中で、さらに気づいた点を職員間で共有し、不安なく過ごしてもらえるようにサポートすることができている。
- ・本人が慣れるまでは積極的に声掛けし、利用者同士も話しやすいよう職員が間に入り話題を提供し居心地よく過ごせるようにすることができている。
- ・家族に連絡帳やLINE（写真添付）でどのように過ごしているかを見えやすくし伝えている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・新規利用時は、まだ見えにくい部分がある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・新規利用時、職員はよく観察しプランの変更が必要な場合は、速やかにサービスの変更ができるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年11月26日（18：30～ 19：30）
2.「～したい」の実現（自己実現の尊重）	メンバー	常勤職員8名 非常勤職員 3名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	5	6	0	0	11

前回の改善計画	定例会議等で利用者の目標の達成度を話し合い、達成していない場合はどのようにしたら達成するのかを職員全体でカンファレンスする。
前回の改善計画に対する取組み結果	定例会議でカンファレンスすることはできているが、毎回の達成度を利用者全員確認し実行するまでには至っていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか？	5	6	0	0	11
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	7	4	0	0	11
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？	5	6	0	0	11
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか？	6	5	0	0	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・利用者の「～したい」を聞いた場合は、「～したい」要望シートがあり、職員はそこに記載し共有することができている。 ・「～したい」をどのようにしたら叶えられるのか会議等で検討することができている。 ・「～したい」はできることから対応している。 ・目標に対して本人の気持ちを尊重し前向きな気持ちになれるように声かけをしている。 ・会議では利用者それぞれについて職員の意見が良く出ており、より良い対応ができるように考えることができた。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・達成度をすべての利用者に対して確認し実行することはできていない。	

次回までの具体的な改善計画	（200字以内）
・ケアマネが作成している目標ファイルを職員がみれる時間を取り、目標に達成していない利用者に対しては定例会議でカンファレンスを行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 6 年 11 月 26 日 (18 : 30～19 : 30)
3. 日常生活の支援	メンバー	常勤職員 8 名 非常勤職員 3 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	8	2	1	0 人	11 人

前回の改善計画	自分で意思の表現ができない方には積極的に関わりを持ち、職員が些細なことでも共有することでその人の気持ちや体調の変化を判断できるようになる。
前回の改善計画に対する取組み結果	職員は利用者一人ひとりの観察がよくできており、体調の変化に気づくことができています。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか？	5	5	1	0	11
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	8	3	0	0	11
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？	5	6	0	0	11
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	9	2	0	0	11
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？	5	6	0	0	11

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- 認知症や言語障がい等で自分の意思を表現できない方は、普段から様子を良く観察し声をかけることで表情やしぐさから感じとれるよう努力している。 - 会議で以前の暮らし方について職員間で発言し共有することができている。 - その日の本人の状況は普段から良くスタッフが見れており、いつもと違う様子にいち早く気づくことができ、看護師や管理者に伝えて対応することができている。 - 基礎的な介護については、その日の体調の変化にも合わせて看護師と介護職が共有し支援をすることができている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
- 声にならない声を一人ひとり拾うことは、とても時間がかかり、日々の介護業務の中からは拾いきれていない。 - 訴えの強い利用者に時間をつかう傾向があり、一緒にゆっくりと寄り添うことが出来ない場合がある。 - 家族からの情報を聞きとれきれず、独居だとさらに難しい。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
ご自身から意思を表現できない方に対しては、些細なことでも職員間で共有し、その人らしく過ごすためにはどのようにしたら良いのかを考えていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年11月26日（18：30～19：30）
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	常勤職員8名 非常勤職員 3名

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	5	6	0	0	11

前回の改善計画	利用者本人の民生委員や立ち寄る場所（買い物等）、近隣の住民等を把握し、変化がないかなど連携をする。
前回の改善計画に対する取組み結果	特に一人暮らしの利用者は、自宅近隣の方には積極的に挨拶し、話しやすい環境をつくり変化がないか等、連携を図ることが出来ている。

◆ 今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？	5	5	1	0	11
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	8	3	0	0	11
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	6	5	0	0	11
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	5	6	0	0	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・送迎時や訪問時に積極的に近隣の方にも挨拶し顔なじみの関係ができている。 ・町内会の会合などにケアマネ等が参加し、民生委員と交流を図っている。 ・利用者が自宅にいる際は、電話し安否確認（何をしていたか？食事はとったか？困ったことはないか等）を積極的にしている。 ・行きつけの美容院や近所の買い物、地域のイベント等に参加することが出来ており、地域との交流を図っている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・これまでの生活スタイルを把握することはできるが、同じことを継続して支援していくことが難しい。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・これまでの生活スタイルを理解し、スタイルに添った支援をするにはどのようにしたらよいか、また難しい場合は今までの生活を大きく変えることのないように支援するにはどのようにしたらよいのかを考え実行する。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年11月26日（18：30～19：30）
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	常勤職員8名 非常勤職員 3名

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	9	2	0	0	11

前回の改善計画	プランの変更に関しては、できること、できていないことの見極めをし、丁寧に家族や利用者に伝え理解してもらう。
前回の改善計画に対する取組み結果	プラン変更については、事業所内での支援を望む家族が多く、宿泊や通所の希望が多くなってしまい、見極めや理解をしてもらうことが難しい場合がある。

◆ 今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	8	3	0	0	11
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	10	1	0	0	11
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	9	2	0	0	11
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	9	2	0	0	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ゴミ出しなどのふれあい収集や近所の方の見守り等の支援をお願いすることができている。 ・日々の変化については、その都度、職員間で共有し、また家族にも電話やLINE等の手段で連絡し共有することができている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・急なニーズに対して利用者に優先順位をつけて利用してもらうが、家族の希望や一人暮らしの方の支援も多く調整が難しい場合がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・今後も個々の支援について、緊急時のニーズのプラン変更等、利用者や家族に丁寧に伝え理解してもらい協力をしてもらう。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年11月26日（18：30～19：30）
6. 連携・協働	メンバー	常勤職員8名 非常勤職員 3名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	6	5	0	0	11

前回の改善計画	地域の子供や高齢者との関係が持てるよう、掲示板を利用し事業所のイベント等の案内を掲示していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	事業所内の様子（利用者の作品の展示やイベントの様子）を掲示することができ、近所の方には事業所を見えやすくすることができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	7	4	0	0	11
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	6	5	0	0	11
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	6	5	0	0	11
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	6	5	3	0	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- インフルエンザ・コロナ等の状況をみながら地域の子供たちがハロウィンのイベントに来てくれた。 - 地域の大学生がホームページを見て、傾聴ボランティアに来てくれた。 - 自治会のイベントには積極的に参加することができている。（夏祭り・落葉感謝祭等） - 地域ケアプラザと自治会が主催する地域の事業者紹介や地域連携会議等に参加することができている。 - ケアマネ・管理者・看護師等でサービス提供会議に参加している。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
感染症が収まらないと自由に外部と関わるができない。	

次回までの具体的な改善計画	（200字以内）
引き続き感染予防に注意をしながら、地域との関わりを多くもっていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年11月26日（18：30～19：30）
7. 運営	メンバー	常勤職員8名 非常勤職員 3名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	8	3	0	0	11

前回の改善計画	運営推進会議や、自治会等に出向いた際に、積極的に地域の取り組みや、困りごと等を共有し取り組んでいく。
前回の改善計画に対する取組み結果	ケアマネ・管理者を中心に地域の取り組みを共有することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか？	7	3	1	0	11
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	9	2	0	0	11
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？	8	3	0	0	11
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか？	7	4	0	0	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・事業所のあり方については、会議やまた日々自分の考えをもって常に伝えることができています。 ・利用者や家族からの苦情については、確認を迅速にして苦情報告書をあげ職員間での再発防止の徹底をしている。 ・日頃から近隣とのコミュニケーションを図り、意見を言いやすい関係性をつくっている。 ・年始には近隣1件1件訪問して挨拶回りし、意見を聞くようにしている。 ・運営推進会議で「～したほうが良い」等の意見がでることがあり速やかに実施することができている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・運営推進会議では特定の職員が関わっているため、直接の意見が言えていない。	

次回までの具体的な改善計画	（200字以内）
・運営推進会議の際に前もって職員の意見を聞くとともに、会議終了後は定例会議等で話し合った内容を職員にも共有し、地域の一員として職員全員が考えられるようにしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和5年11月24日（18：30～19：30）
8. 質を向上するための取組み	メンバー	常勤職員8名 非常勤職員 3名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	4	7	0	0	11

前回の改善計画	B P Cマニュアルを完成させ、会議の場等で職員全員に緊急時の対応を周知できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	BCP のマニュアルは完成することができたが、具体的な把握が周知できていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	6	5	0	0	11
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	6	5	0	0	11
③	地域連絡会に参加していますか	4	7	0	0	11
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	5	6	0	0	11

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・リモートでの研修も含めて、レベルにあった研修に参加することができた。また、会議の場で学んだことを発表し、職員全員が勉強することができた。また、研修配信を繰り返し見れる場合は、勤務の状況をみながら短時間勤務職員も研修に参加することができた。 ・いざという時に備えて AED や心臓マッサージ等が慌てずにできるよう、外部から講師を呼び全員で研修をすることができた。 ・ヒヤリハットや事故報告は日々ファイルで共有し、朝のミーティングや会議で話し合い再発防止に努めている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
BCP について感染症は職員の知識が高くなっているが、地震についての事業所継続には職員の行動の周知不足や職員自体の被災など心配があり、今後の訓練がさらに必要である。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
BCP を職員全員でマニュアルを把握し、実際の訓練につなげていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年11月24日（18：30～19：30）
9. 人権・プライバシー	メンバー	常勤職員8名 非常勤職員 3名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	9	2	0	0	11

前回の改善計画	家族の不適切な介護を発見した場合は、介護者への負担の軽減や話を聞く機会を多く設け、また、事業所内で抱えられないことは地域ケアプラザや区役所等に報告・相談をする。
前回の改善計画に対する取組み結果	家族の介護疲れに対して、面談の機会を増やし話せる場をつくったり、家族が休める時間が持てるよう宿泊や通所を多くできるよう調整し支援することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	身体拘束をしていない	7	4	0	0	11
②	虐待は行われていない	10	1	0	0	11
③	プライバシーが守られている	9	2	0	0	11
④	必要な方に成年後見制度を活用している	9	2	0	0	11
⑤	適正な個人情報の管理ができている	9	2	0	0	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- 個人情報やプライバシーの内容が漏れないように、申し送り等は、利用者に聞こえない場所でおこなっている。 - 身体拘束・高齢者虐待委員会を発足し、同法人事業所と合同で会議を行い適切なケアは何かを共有し確認している。また、会議の後は、全職員が共有できるよう定例会議で報告し、検討することができている。 - 会議で考える機会が増えやむを得ない場合であったとしても、無くせる方向に持っていくことを検討することができ、スタッフの意識が高くなっている。； - 成年後見制度はケアマネを中心に必要な場合は家族と活用している。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
認知症の利用者が問題行動をしている際に、否定する言葉かけをしてしまっているときがあり、その場にいる職員間での声かけが不十分な時がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
定例会議やまた研修で認知症の方の対応、適切なケアはどういうことなのかを理解し、不適切な声かけがあった際は、風通しよく職員間で指摘できるようにしていく。	

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社セルフピーイング	代表者	松崎 泉	法人・事業所の 特徴	保土ヶ谷区境木本町の住宅地に開設して、12年目を迎えました。登録人数は25名。事業所の2つの理念である、利用者の歴史を大切にし、気持ちに添ったサポートをすること、利用者ご家族の立場にたって物事を考え、その人らしく生き活きと過ごせるようにサポートすることをスタッフ全員が心がけ、家庭と変わらない環境で、居心地のよい場となるように日々努めています。現在スタッフの80%以上が介護福祉士・実務者研修の資格を持っています。様々な状況のご利用者に対応するため、介護技術、接遇技術の向上に努めています。
事業所名 保土ヶ谷区	小規模多機能しおり 境木	管理者	松崎 泉		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	4人	人	1人	1人	人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価の確認、達成度を定期会議で話し合い、達成するためにはどのような事が必要かを考え実行していく。	定例会議では、達成度を確認して実行することができたが、防災・災害については課題も多い。	問題点を見つけ会議し全員が取り組んでいる。一人ひとりが対処できるようになっている。	事業所内に改善計画を掲示し、職員全員の目にする機会を増やし、計画を取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き居心地の良い場であるよう、日頃から清掃・点検等をし、ボランティアと一緒に花壇の手入れをする。	近所のボランティアがさらに増え、花壇と一緒に手入れをすることができた。また、居室等は掃除チェック表を作り、清潔に保たれるようにしている。	花壇が手入れされており、過ごしやすい場所であることが外から見てもよくわかる。	運営推進会議メンバー等が事業所に気軽に訪問できるよう（行事のボランティア等）、声をかけていく。
C. 事業所と地域のかかわり	掲示版にしおり便りを掲示し、どのような活動をしているのかを分かりやすくする。また、引き続き町内にしおり便りを回覧してもらう。	しおり便りは定期的に回覧し、事業所の活動の見える化をすることができた。年1回は近隣宅に訪問し、困りごとや事業所への意見を聞いている。	近所や知り合いの方にしおりはとても良いところみたいねと言われたり、家族を通わせたいので様子を聞きたいと相談される。地域の方の選択肢になっており認知度は高い。包括支援センターの突然の相談に対して、温かく丁寧に対応してくれ助かっている。	AED 設置事業所であることを、近隣に知ってもらい、いざという時に貸出ができるよう、職員も研修を重ねる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	自治会等のイベントは早めに把握し、人員を確保し利用者が楽しみにするよう計画を整え参加していく。	外出は早めに検討し、利用者が楽しみになるように計画することができた。地域だけではなく、利用者の要望を聞き、様々な場所に出かけることができた。	地域のイベントだけではなく、色々な場所に外出していることが便りでわかる。事業所にいる時間が長いので生活の一部として楽しいと思う。	普段から近隣に挨拶し、利用者以外の地域の心配な方にも積極的に声をかけ、困りごとを察知できるよう心掛ける。

E. 運営推進会議を活かした取組み	自治会やケアプラザ等と引き続き連携し、事業所・地域の困りごとを共有し助けあっていく。	ケアプラザや近隣施設等からは、地域の方の要介護者の紹介の相談が増えている。また、直接近所の方から相談も増えている。	事業所の取り組みを細かく説明してもらえるので、毎回職員一人ひとりが利用者の生活を支えていることが良くわかる。	運営推進会議等で、地域での取り組みを把握し一緒に取り組んでいく。
F. 事業所の 防災・災害対策	BCP の計画に沿った訓練の実施し、自治会等にも事業所の防災計画を理解し参加してもらう。	事業所としての BCP 計画・訓練の実施はあるが、自治会の参加はできていない。	地域8連合拠点防災訓練を実施しており、協力しあうことが大切である。	地域8連合拠点防災訓練の際、事業所も参加する。

